

第4号 稲作管理特報

令和3年6月4日
朝日町
黒東地域農業技術者協議会

今年の稲の生育は、ほ場間差がありますが、全体として平年並みとなっています。今後は、晴れ間を逃さず適期に中干しを開始し、梅雨が本格化する前に終わらしましょう。また、中干し終了後は、「**間断かん水**」と「**飽水管理**」により根の伸長促進と活力維持に努めましょう。

【コシヒカリの生育状況】

年次	田植日	5月25日				6月1日					
		草丈 cm	茎数 本/株 本/m ²		葉齢	葉色	草丈 cm	茎数 本/株 本/m ²		葉齢	葉色
R3	5/11	23.5	4.0	86	4.4	3.9	26.4	5.9	126	5.5	4.0
平年	5/12	23.1	4.0	81	4.7	4.0	26.3	6.6	134	5.6	4.1

1 「中干し」の実施

中干しは、田植え後4週間頃を目安に開始し、本格的な梅雨の前にしっかりと干し上げましょう。

ただし、茎数が少ないほ場は、強く干しすぎないように注意してください。

※詳細は、前回の稲作管理特報(第3号)をご覧ください。

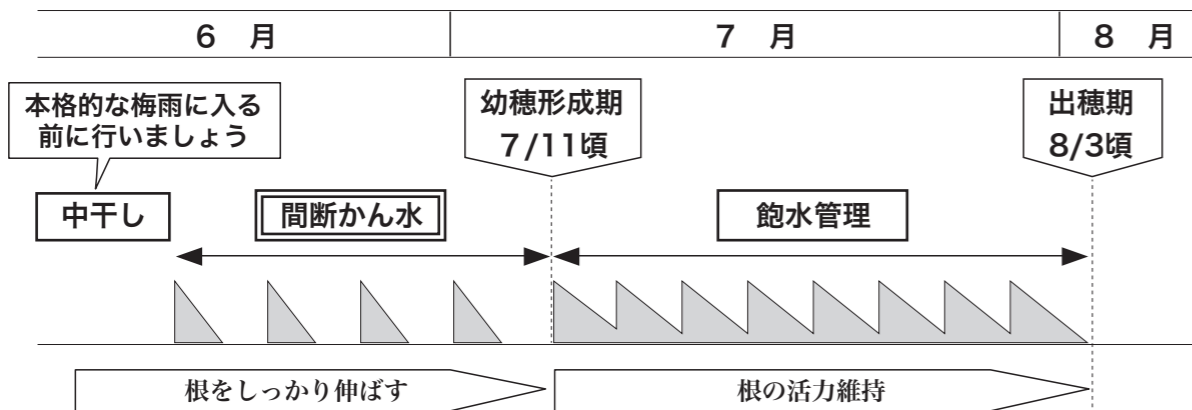


2 「中干し」以降の水管理

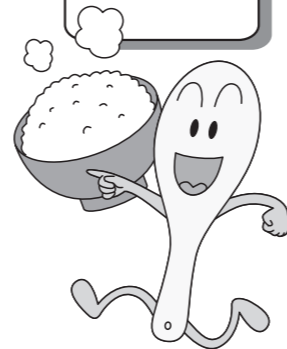
中干し後、幼穂形成期までは1日湛水、2～3日落水の「**間断かん水**」で、根に酸素を供給し、伸長を促しましょう。(※目安は足跡の深さ3cm以内に地固め)

幼穂形成期以降は、「**飽水管理**」(足跡に水が残る程度の状態になったら入水して、土が水分不足にならないような管理)を行い、稲が水分不足にならないようにしましょう。

【水管理のイメージ図(コシヒカリ)】



「**間断かん水**」と「**飽水管理**」で、夏の高温に負けない根づくりを!



3 「エスアイ加里らくだ」の施用

管内の水田土壌(特に、砂壤土)では、「**カリ**」及び「**ケイ酸**」の含量が大幅に減少しています。稲の受光体勢を改善し、下葉の枯れあがりを防ぐために、必ず補給しましょう。

施用時期:6月20～25日頃 施用量:15kg/10a



4 中・後期除草剤の散布

ノビエや広葉雑草が残ったほ場には、除草剤を散布しましょう。

対象雑草	農薬名	散布時期	10a当たり散布量	使用回数
ノビエ	トドメMF1キログラム剤 (湛水してから散布する)	田植後14日～ノビエ5葉期 (収穫50日前まで)	1kg	3回以内
ノビエ・広葉雑草	アクシズMX1キログラム剤 (湛水してから散布する)	田植後7日～ノビエ4葉期 (収穫45日前まで)	1kg	1回
	レプラスジャンボ (湛水してから散布する)	田植後14日～ノビエ4葉期 (収穫60日前まで)	バック10個(400g)	1回
	フォローアップ1キログラム剤 (湛水してから散布する)	田植後15日～ノビエ5葉期 (収穫60日前まで)	1kg	1回
広葉雑草	※バサグラン粒剤 (落水してから散布する)	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	3～4kg	1回

※バサグラン粒剤は、雑草が局所的に多発生している部分へのスポット処理が可能です。散布は晴天日に行ってください。また、散布後3～4日程度は入水しないでください。

5 カメムシの発生防止

斑点米カメムシ類の住みかとなる雑草地や畦畔の草刈りを徹底しましょう
～草刈り作業時の留意点～

例年、草刈り作業時における農作業事故が多発しています。雑草地や傾斜地等で作業を行う際は、周囲の安全を確認し、怪我や転倒などに注意してください。

事故原因については、「刈り刃への接触・巻き込まれ」が大部分を占めています。草刈作業は周囲に人がいないことを必ず確認してから始めましょう。また、草刈機に巻き付いた草などを取り除く際は、必ずエンジンを止めてから行いましょう。

熱中症対策として、こまめに休憩を取り、水分補給を行いましょう。

※ほ場に残っている補植用の苗は、いもち病の発生源になるため、速やかに処分しましょう。

